

「スーパージュニア選手育成プログラム2021」 体験プログラム②

スーパージュニア選手育成プログラム2021のトライアル（選考会）については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止にしましたが、感染状況が落ち着いてきたのでトライアルに申し込みがあった方を対象に、希望調査をとり、体験プログラムを実施しました。

12月18日(土)の体験プログラム②は、スケートを行いました。

体験プログラム②のスケートは、広島県スケート連盟のご協力のもと、広島市東区のひろしんビッグウェーブで開催しました。

開会行事では、公益財団法人広島県スポーツ協会の武鍵守（強化副委員長）から、挨拶をいただきました。



スケートリンクに入る前に、スケート競技（スピード、フィギュア、アイスホッケー）の説明を聞きました。そのあと、準備体操を行いました。そして、スケート靴、肘・膝のサポーター、ヘルメットを借りて、リンクサイドに集合です。

最初に、広島スピードスケートクラブのジュニア選手たちによる模範滑走をしていただきました。模範滑走には、全日本ノービスカップで優秀な成績を残した今回の参加者と同年代のクラブの選手にも参加していただきました。参加者たちは、自分とあまり年齢が変わらない選手のスピード感のある滑走を間近で見て、圧倒されている様子でした。



いよいよ、スーパージュニア選手たちもリンクへ入ります。

最初は氷上での歩行練習で、壁から手を離してゆっくり歩きながら氷上に慣れていきます。学年・男女別の3グループに分かれて滑走の練習です。

ゆっくり両足で前に進めるようになったら、片足での滑走、体重移動、止まり方などを教えていただきました。カラーコーンを置いて小さな周回コースを滑走する練習では、最初に比べて転ぶ回数がぐんと減り、上達を感じることができました。

最後は、男女別学年別に、4人から5人一組で一周のレースです。スタートをしたら下ではなく前を向いて滑れ、とアドバイス。ゴールが近くなると気持ちが焦って「滑る」より「走る」になってしまうのは、毎年恒例の風景です。体験が始まったばかりの時、恐る恐る氷に立っていた姿からは想像できません。

それぞれの組の中で上位2着が決勝進出で男女別のそれぞれ上位8人による決勝レースを行いました。接戦が繰り広げられ、転倒してもすぐ立ち上がって一つでも順位を上げられるよう一生懸命滑っていました。上位の8名には広島県スケート連盟から表彰状が授与されました。

この体験がきっかけで、ご家族や友達とスケート場に行く回数が増えることを期待しています。